

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課		地域コミュニティ推進課					
事 業 名	No.1		複合型コミュニティ「まちのえき」づくり								
事 業 区 分	継続	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	2	項	1	目	8	
施 策 体 系	1	市民自治活動・学び			戦 略 的 施 策		☒	行 政 改 革 大 綱		(1)(4)	
根 拠 法 令 等								事 務 区 分		自治事務	
事 業 期 間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年年度(R2 年度～ 年度)										

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	身近な拠点に多様なサービスと人的交流を創出し、あらゆる世代が集い、誰もが居場所と活躍のある持続可能なコミュニティを構築する。				
事業概要 (全体計画)	集会所や公園などの歩いて行ける範囲の拠点において、新たに場づくり活動を行う市民活動団体(自治会等)に対し補助金を交付することにより、活動のスタートアップ支援及び継続的な伴走支援を行う。				
	事業の対象	生駒市民			(対象数: -)
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	補助金 3,900千円 ネットワーク会議・研修等運営委託1,342千円 情報発信 165千円 複合型コミュニティWS講師謝礼 60千円		補助金 1,460千円 4件 ネットワーク会議・研修等運営委託 440千円 情報発信 165千円		
	事業実施手法 ☒ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☐ その他 ()				

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	3,307	5,467	2,065	5,515
12委託料	660	1,507	605	1,515
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金	2,636	3,900	1,460	4,000
その他	11	60		
財源(千円)	3,307	5,467	2,065	5,515
特定財源	2,933	2,733	1,032	2,757
市債				
その他				
一般財源	374	2,734	1,033	2,758

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		令和7年度は新たに2拠点増えており、自治会を中心とした市民活動を支援できている。	
KPI		指標1	指標2
	指標名(単位)	まちのえき新規開設数	
	目標値	3	
	実績値	2	
	目標値と実績値の差分についての理由	地域の担い手不足や資金面の課題等により、新たに複合型コミュニティ「まちのえき」づくりに取り組む余力がある自治会が限られる。	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	特定財源を確保するよう努め、想定通り調達できる見込みである。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	地域コミュニティ推進の基礎的な集団である自治会の活性化に向け、継続的に支援している。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	まちのえきネットワーク会議を実施し、事業者や団体にまちのえきと連携できる事業をプレゼンしてもらう機会を設けることで、まちのえきと事業者等のマッチングを促進した。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	複合型コミュニティの立ち上げに際して実施する住民アンケートをロゴフォームから回答できるようにするなど、若年層が取り組みやすい仕組みの構築に取り組んでいる。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	自治会をはじめとした地域コミュニティの支援を実施しているが、余力のある自治会は限られており、今後地域コミュニティの活性化に向けては取組方法の再検討などが求められる。	
事業実施上の課題・残された課題		余力のある自治会が限られていることから、好事例の展開や他主体の参画による自治会負担の軽減などに取り組む必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		地域の基礎的なコミュニティである自治会を支援することは、まちの賑わいづくりだけでなく、防犯や災害対応等、様々な効果が見込まれる。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課		市民活動推進センター							
事 業 名		No.2		市民公益活動の創出・発展支援事業									
事 業 区 分		継続	会 計 区 分		一般会計	予 算 費 目		款	2	項	1	目	8
施 策 体 系		1	市民自治活動・学び				戦 略 的 施 策		☒	行政改革大綱			(4)
根 拠 法 令 等										事 務 区 分		自治事務	
事 業 期 間		☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年年度(R7 年度～ R10 年度)											

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	地域の担い手の高齢化・固定化が進む中、新たな層の参加を促進し、多様な主体による市民公益活動の創出および発展を図る。あわせて、活動の立ち上げから継続・自立までを支える仕組みの構築を目的とする。				
事業概要 (全体計画)	公益性を有する市民活動を対象に、①学びと仲間づくりの機会(連続講座)、②財政的支援(補助金)、③課題解決のための専門的支援(専門家相談)を連動して実施し、活動の創出から継続・発展までを一体的に支援する。				
	事業の対象	生駒市民 (対象数: ー)			
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)		
	・地域活動創出のための連続講座 1,786千円 ・地域活動応援補助金 2,060千円 ・専門家による市民活動相談事業 1,232千円		・地域活動創出のための連続講座 1,738千円 ・地域活動応援補助金 804千円 ・専門家による市民活動相談事業 1,073千円		
事業実施手法 ☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☐ その他 ()					

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	—	5,078	3,615	4,924
12委託料		2,844	2,761	2,714
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他		2,234	854	2,210
財源(千円)	—	5,078	3,615	4,924
特定財源		3,018	2,914	2,851
市債				
その他				
一般財源		2,060	701	2,073

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと（事業の成果）		連続講座では参加者全員が具体的な企画の発表に至り、多様な活動が生まれたほか、補助金は見直しによって応募件数が増加した。相談事業は団体の課題整理や運営改善に寄与し、職員の支援力向上にもつながった。	
KPI		指標1	指標2
	指標名(単位)	補助金応募件数(件)	相談事業の満足度(%)
	目標値	10件	70%
	実績値	8件	87%
	目標値と実績値の差分についての理由	新設の補助金であり、制度の認知が十分に浸透していなかったため。	専門家による具体的かつ実践的な助言が高い満足度につながったため。
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	国の交付金も活用して財源も確保しながら、市民公益活動の創出につなげているため。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	各事業を単独で実施せずに連動させることで講座参加者が補助金に応募したり、補助金採択団体が専門家相談を受けるなど循環が生まれ、施策目標の実現に寄与した。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	連続講座・専門家相談は、公募型プロポーザルにより民間事業者や専門機関の知見を活用し、専門性の高い支援体制を構築した。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	全ての事業で参加者アンケートを実施し、事業の改善に活用した。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	新たな活動の芽の創出や応募件数の増加、団体運営の改善などの成果が見られ、市民活動の裾野拡大に寄与している。	
事業実施上の課題・残された課題		講座参加者が活動を始めてから継続にいたる導線や、多様な参加の入口づくりには課題が残っており、さらなる改善を図る必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		いずれも高い満足度、新しい層の参加につながっているため、循環を促し、市民公益活動を確実に生み出す仕組みを構築する。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課市民活動推進センター							
事 業 名	NO.3		市民活動推進センター設備改修工事								
事 業 区 分	新規	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	2	項	1	目	8	
施 策 体 系	1	市民自治活動・学び				戦 略 的 施 策	☐	行 政 改 革 大 綱		(3)(4)	
根 拠 法 令 等								事 務 区 分	自治事務		
事 業 期 間	☒ 単年度(R7年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年度(年度～ 年度)										

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設の老朽化に伴い、安全性や快適性の低下が見られる中、今後数年程度の継続使用を前提として、必要な設備改修を実施し、利用者および職員が安心して活動・業務を行える環境を維持する。									
事業概要 (全体計画)	法定耐用年数を超過した電気設備や、経年劣化により不具合が生じている床・空調設備について必要な改修を行う。									
	事業の対象		市民活動推進センター (対象数: 1)							
決算年度の 取組	取組計画					取組実績(見込)				
	・電気設備工事、1階床内装工事 合計9,314千円					・電気設備工事 2,851千円 ・1階床内装工事 2,411千円 ・壁クラック修理 454千円 ・換気扇修理 120千円 ・交流室空調修理 2,475千円				
事業実施手法 ☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()										

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	9,314	8,311	0
12委託料				
14工事請負費		9,314	4,809	
18負担金補助及び交付金				
その他			3,502	
財源(千円)	0	9,314	8,311	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		9,314	8,311	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		施設の安全性および快適性が向上し、利用者および職員が安心して活動・業務を行える環境を確保した。また市民公益活動の拠点として安定的な施設運営を維持することができた。		
KPI	指標1		指標2	
	指標名(単位)			
	目標値			
	実績値			
	目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)				
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由		
	B	計画を見直し改修範囲を限定したことで、コストの削減につながった。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	施設を安全かつ支障なく利用できる状態を確保することができた。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	多様な主体が、より安全に利用できる施設としたことで、協創を促進する一助となった。		
	評価	評価した根拠・理由		
	—	直接的な効果はないため評価対象外とする。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	当面は、施設を安全に利用するために必要な工事等を適切に実施したため。		
	事業実施上の課題・残された課題		施設の老朽化により、今後も継続的に設備の不具合が発生することが見込まれること。市民活動を支える拠点としてのあり方や活用方法について、中長期的な視点で見直しを進めることが必要。	
	今後の取組方針	完了	判断理由	
当該事業は計画どおり完了したが、上記の課題は引き続き残っている。				

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課		地域コミュニティ推進課					
事 業 名	9月補正No.1		新しい地域コミュニティ構築推進事業								
事 業 区 分	新規	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	2	項	1	目	8	
施 策 体 系	1	市民自治活動・学び			戦 略 的 施 策		☒	行 政 改 革 大 綱		(4)	
根 拠 法 令 等								事 務 区 分		自治事務	
事 業 期 間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年年度(R7 年度～ 年度)										

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	新しい人と人のつながりの創出により住民同士の顔の見える関係を構築することで、持続可能な地域コミュニティの活性化を図る。		
事業概要 (全体計画)	ワークショップ(オフライン施策)と地域活動や市民主体のテーマ型活動を紹介するポータルサイト(オンライン施策)の実施によって、市民同士が無理なく出会い、ゆるやかなつながりが生まれる環境を整備する。		
	事業の対象	生駒市民	(対象数: -)
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)
	①新しい地域のつながりを構想…自治会以外の「ゆるやかなつながり」の構築を検討、②「つながる方法」検討、③ワークショップ実施 プロポーザル審査委員会 謝礼42千円		①新しい地域のつながりを構想…自治会以外の「ゆるやかなつながり」の構築を検討 ②「つながる方法」検討 ③ワークショップ実施 プロポーザル審査委員会 謝礼 14千円
	【R7補正(全額R8繰越)】 委託内容…①市民同士の顔の見える関係性を育むワークショップ等(オフライン施策)の実施16,500千円、②ポータルサイト(オンライン施策)の構築10,000千円、③自治会活動の負担軽減に向けた取組、④中間支援組織の組成に向けた検討6,500千円、事業構想及び全体戦略策定7,000千円		
	事業実施手法 ☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	40,042	14	0
12委託料		40,000		
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他		42	14	
財源(千円)	0	40,042	14	0
特定財源		20,000		
市債				
その他				
一般財源		20,042	14	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		本事業については、令和7年度9月議会において当該予算が不成立となり、当該年度内の執行が困難となったため、令和7年度3月補正にて確保した予算を令和8年度に繰越して実施する。		
KPI	指標1		指標2	
	指標名(単位)	本事業により成立したコミュニティ数(組)		
	目標値	0		
	実績値	0		
	目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)				
コスト意識 (費用対効果・財源確保) 目的思考 (施策目標への寄与) 多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用) デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM) 総合評価	評価	評価した根拠・理由		
	－	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。		
	評価	評価した根拠・理由		
	－	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。		
	評価	評価した根拠・理由		
	－	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。		
	評価	評価した根拠・理由		
	－	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。		
	評価	評価した根拠・理由		
	－	当該事業に係る取組は未完了であるため、評価は行わない。		
	事業実施上の課題・残された課題			
	今後の取組方針	現状維持	判断理由 新しい地域のつながりの検討結果を踏まえて、ワークショップの実施やポータルサイトの構築を行う予定である。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		生涯学習課	
事業名	No.4	学びと活躍推進事業	
事業区分	継続	会計区分	一般会計
予算費目	8	項	5
目	1	目	1
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策
行政改革大綱	(1)(4)	事務区分	自治事務
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(R4 年度～継続) ☐ 複数年(年度～ 年度)		

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	学びを通して地域課題や社会課題に触れ、考える機会をつくることで、地域や社会に能動的に関わり行動する市民が増える。また多様な市民同士が学び合うことで、お互いの違いを受け止め、多様性を認め合う意識が醸成される。		
事業概要(全体計画)	・「ischool」での多様な講座の開催 ・「ischool for kids スキをつけていいんだよ」		
事業の対象	生駒市民 (対象数:)		
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)
	・市民協働や他課との連携等による講座の開催 1,062千円		・市民協働や他課との連携等による講座の開催 735千円
	・学びのポータルサイトの運用 330千円		・学びのポータルサイトの運用 303千円
事業実施手法	☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	2,368	1,392	1,038	1,402
12委託料	1,722	330	303	330
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	646	1,062	735	1,072
財源(千円)	2,368	1,392	1,053	1,016
特定財源				
市債				
その他				950
一般財源	2,368	1,392	1,053	66

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	ischoolでは多様なテーマで市民ニーズの高い講座を実施。ischool for kidsでは、子どもたちのスキナ事や夢中になれることを見つけ、続けることの大切さを保護者も同時に認め伸ばす機会となった。		
KPI	指標1 指標2		
指標名(単位)	アンケートで「今後の暮らしに活かしたいことがあった」と答えた割合(%)		
目標値	70		
実績値	74.4		
目標値と実績値の差分についての理由	受講者のニーズや関心をとらえ、年間を通してテーマを絞り実施した		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由 スキルのある市民に講師を依頼するなど市内にある様々な資源を活用することで、より効率的な予算執行につながった。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由 働き盛り世代の市民に地域の魅力や課題、また社会課題に触れてもらうために「こどもと一緒に学ぶ」形式を取り入れたり託児を用意するなどできるだけ参加しやすい場となるよう企画してきた。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由 市民や地域の団体、また「協創対話窓口」で提案してきた民間企業とも連携して講座を企画実施してきた。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由 講座の企画においてデータ活用の余地はあまりなかったが、参加者のニーズ等はアンケート等で把握しておりこれらのデータを今後の講座企画で活かしていきたい。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由 多様な講座を実施することができ、参加者からの評価も高く、また講座の中でも大人の参加者が積極的に役割を果たすことでより深い学びを得て参加者同士のつながりづくりも図れるなど効果も高かった。	
事業実施上の課題・残された課題	連携できる部署や事業者の偏り		
今後の取組方針	現状維持	判断理由 取り上げるテーマによってあらゆる部署や事業者等と連携し、より満足度の高い講座を実施する	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課生涯学習課								
事 業 名	No.5		高齢者教育推進事業									
事 業 区 分	継続	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	8	項	5	目	1		
施 策 体 系	1	市民自治活動・学び				戦 略 的 施 策	☐	行 政 改 革 大 綱		(1)		
根 拠 法 令 等								事 務 区 分	自治事務			
事 業 期 間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年年度(年度～ 年度)											

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	・学びと交流の場を通して健康増進を進めるほか、まちづくりに関わるきっかけを得て活動に参加する高齢者が増える。 ・講座を通して知識や情報を得るとともに充実したセカンドライフに向けて今後の生き方を考え、行動する高齢者が増える。										
事業概要 (全体計画)	・いこま寿大学の運営 62歳以上の市民を対象に、「健康づくり」「生きがいつくり」「仲間づくり」をしながら、「まちづくり」でも活躍できることを目指して学ぶ。 ・セカンドライフ充実支援 講演や実践講座を通して豊かなセカンドライフの実現に向けたプラン作成や行動につなげる。										
	事業の対象 生駒市内の高齢者 (対象数:)										
決算年度の 取組	取組計画					取組実績(見込)					
	▶ いこま寿大学の運営 7,758千円					▶ いこま寿大学の運営 4,816千円					
	▶ 寿生駒連絡協議会「気らくネット」活動支援 0					▶ 寿生駒連絡協議会「気らくネット」活動支援 0					
	▶ セカンドライフ講演会 0					▶ セカンドライフ講演会 0					
	▶ セカンドライフ実践講座 430千円					▶ セカンドライフ実践講座 138千円					
事業実施手法 ☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()											

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	8,729	8,188	4,954	7,230
12委託料		32		
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	8,729	8,156	4,954	7,230
財源(千円)	8,729	8,188	4,954	7,230
特定財源	2,237	2,137	1,198	1,718
市債				
その他	3,351	2,452	1,371	2,740
一般財源	3,141	3,599	2,385	2,772

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		いこま寿大学において、クラブ学習や一般教養学習会等様々な学習活動を通して市内の高齢者が学び交流できる場づくりに努めた。また、セカンドライフに関する講演会(1回)及び実践講座(1テーマ3回)を実施し、より豊かで安心して今後のセカンドライフを送れるよう支援した。	
KPI		指標1	指標2
	指標名(単位)	セカンドライフ講座受講者累計数(人)	
	目標値	900	
	実績値	934	
	目標値と実績値の差分についての理由	他課との連携事業とすることで多くの市民が受講することができた	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	物品の購入は必要最小限に抑えるほか、学習会の講師もできる限り企業や本市の関係団体、また出前講座の活用などにより経費を抑えるなど節減に努めた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	寿大学の学生や講座の受講者は積極的に学習に参加し、新たな学びやつながりを作ることができている。また卒業生等で組織する「気らくネット」も地域貢献活動をはじめ様々な取組を進めている。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	市民や関係団体等に講師を依頼するなど、多様な主体と協働しながら学習活動の企画を進めてきた。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	セカンドライフ講座で「スマホの使い方」講座を実施。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	寿大学は当初予定通りの学習活動をすべて順調に行うことができ、学生に対して充実した学びを提供できた。セカンドライフ講座は実施回数は昨年度より少なかったものの、満足度は引き続き高く、学んだことを当日から実践しようとする意欲が見られるなど内容は充実したものであった。	
事業実施上の課題・残された課題		寿大学の学生数が年々減少している。高齢でも就労する市民が多いことが主な理由であげられるが、学びのニーズやサービスも多様化している中で、寿大学で提供するべき学びの種類やあり方についても検討が必要である。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		事業については引き続き実施していくが、並行して寿大学のあるべき姿についても検討を進めていく。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報				担 当 課 スポーツ振興課						
事業名	No.6 市内生涯学習施設整備事業									
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目	款	8	項	5	目	2
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	☒	行政改革大綱		(3)	
根拠法令等	生駒市生涯学習施設条例、生駒市生涯学習施設条例施行規則						事務区分	自治事務		
事業期間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年(R4 年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設の整備を計画的に行い、今後の方向性を定めることで、整備に係るトータルコストの縮減等を図るとともに施設をより長く安全に使用することができる。		
事業概要(全体計画)	誰もが安心・安全に利用できる施設にするため、老朽化が進んでいる市内生涯学習施設を適切に維持管理し、適宜改修や修繕を進める。		
事業の対象	生涯学習施設 (対象数: 7)		
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)
	▶ 北コミ空調工事(2期) 68,299千円 ▶ セイセイビルLED改修(地下・3階) 19,041千円 ▶ 図書館LED改修(1・2階) 11,539千円 ▶ 図書館授乳室移設工事 3,762千円 ▶ 南コミ空調設計業務 7,556千円【R6補正(繰越分)】 ▶ 南コミ空調工事(債務負担行為) ▶ 芸術会館美楽来蓄電池設備取替業務 5,918千円【R7補正(繰越)】		▶ 北コミ空調工事(2期) 55,497千円 ▶ 図書館LED改修(1・2階) 10,032千円 ▶ 図書館授乳室移設工事 1,585千円 ▶ 南コミ空調設計業務 5,733千円【R6補正(繰越分)】
	事業実施手法 ☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	86,085	116,115	72,847	195,773
12委託料	11,461	13,474	5,733	29,884
14工事請負費	74,624	102,641	67,114	161,958
18負担金補助及び交付金				
その他				3,931
財源(千円)	86,085	116,115	72,847	195,773
特定財源	12,406	3,823	5,808	10,257
市債	65,000	96,800	65,600	172,400
その他		3,048		
一般財源	8,679	12,444	1,439	13,116

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	一部の取組につきましては、工期変更等により令和8年度へ繰越となったが、他の取り込みについては、年度内に完了し、施設利用者の安心・安全を確保することができた。		
KPI	指標1		指標2
指標名(単位)			
目標値			
実績値			
目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	随意契約になるものについては見積合わせを、それ以外は入札による執行で、予算額より費用を抑えることができた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	事業を進めるうえで、実施時期等を施設をはじめ関係部署と協議を重ねて行い、齟齬が生じないように務めた。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	—	事業を進めるうえで、施設の管理運営を行う指定管理者等との協議を進めたが、多様な主体との協創を取り入れることができるかは課題である。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	—	事業を進めるうえで、デジタル技術の活用等は行っていないが、業務効率化のため、今後いずれかの段階で取り入れることができるかどうか検討していく。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	殆どの事業については、予定通り今年度内に事業完了し、一部の事業においても繰越等で工期延長し、対応していくことで、予算計上した事業は着実に進めることができた。	
事業実施上の課題・残された課題	予算化した以外のことでの予期せぬ修繕等が多く、利用者の方に影響を少なくするため、今後予防的保全の観点からも進めていく必要が急務である。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		今後も指定管理者等との連携を行い、施設の適切な維持管理を行っていく。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課		スポーツ振興課、危機管理課、消防署								
事 業 名		No.7		やまびこホール廃止関連事業										
事 業 区 分		継続	会 計 区 分		一般会計	予 算 費 目		款	7	項	1	目	3	
施 策 体 系		1	市民自治活動・学び			戦 略 的 施 策		☐	行政改革大綱		(3)			
根 拠 法 令 等										事 務 区 分		自治事務		
事 業 期 間		☐ 単年度(	年度)		☐ 単年度繰返(	年度～継続)		☒ 複数年度(	R6	年度～	R8	年度)		

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設存続の場合に係る敷地使用料、建物改修費用等施設の将来的な維持費が無くなることから、財政負担を減らすことができる。また、生駒山系や周辺地域の火災に安定した水利を確保し、防御活動を行うことができる。		
事業概要 (全体計画)	令和7年4月以降に耐震性貯水槽を別用地へ新設するため、設置工事を開始し、令和8年5月末日までの完了を目指す。		
	事業の対象	やまびこホール	(対象数: 1)
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)
	◇耐震性貯水槽設置工事 26,500千円 (全額R8繰越)		◇耐震性貯水槽設置工事 0円
	事業実施手法		☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()

3 事業費・財源内訳

事業費(千円)		R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)		29,430	26,500	0	0
12委託料		6,180			
14工事請負費		21,485	26,500		
18負担金補助及び交付金					
その他		1,765			
財源(千円)		29,430	26,500	0	0
特定財源		18,964			
市債		4,900	26,500		
その他					
一般財源		5,566			

4 事業の成果・評価

事業の成果・計画		「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		年度内に工事を完了することができなかった。	
KPI	指標名(単位)		指標1	指標2	
	目標値				
	実績値				
	目標値と実績値の差分についての理由				
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)					
事業実施上の課題・残された課題	コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価 C	評価した根拠・理由 工事方法に変更が生じたため、予算額より増額となる見込みとなった。		
	目的思考 (施策目標への寄与)	評価 B	評価した根拠・理由 事業を進めるうえで、関係部署と協議を重ねて行い、齟齬が生じないよう努めた。		
	多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価 —	評価した根拠・理由 限られた関係者と進めるものであり、多様な主体との協創が難しい事業であったことから、取り入れることをしなかった。		
	デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価 —	評価した根拠・理由 事業を進めるうえで、特にデジタル・データの活用を行っていない。		
	総合評価	評価 C	評価した根拠・理由 工事方法に変更が生じたことにより工事費用が増額し、また、工期の延長も生じ、年度内の完了ができなかった。		
	事業実施上の課題・残された課題		新たな耐震性貯水槽が完成するまでの間に万が一有事の際は、大門町内にある溜池の水を水源に使用するため、定期的に溜池の水位の確認や溜池周辺の草刈り等を行う必要が有る。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由 他の場所への耐震性貯水槽の再設置が工期延長となったため、新たに設定した工期内に終わるよう努めている。			

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課								スポーツ振興課、危機管理課、消防署				
事 業 名		No.7		やまびこホール廃止関連事業												
事 業 区 分		継続	会 計 区 分		一般会計		予 算 費 目		款	7	項		1	目		3
施 策 体 系		1	市民自治活動・学び					戦 略 的 施 策		☐	行 政 改 革 大 綱			(3)		
根 拠 法 令 等												事 務 区 分		自治事務		
事 業 期 間		☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年年度(R6 年度～ R8 年度)														

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設存続の場合に係る敷地使用料、建物改修費用等施設の将来的な維持費が無くなることから、財政負担を減らすことができる。また、生駒山系や周辺地域の火災に安定した水利を確保し、防御活動を行うことができる。									
事業概要 (全体計画)	令和7年4月以降に耐震性貯水槽を別用地へ新設するため、設置工事を開始し、令和8年5月末日までの完了を目指す。									
決算年度の 取組	事業の対象		やまびこホール (対象数: 1)							
	取組計画					取組実績(見込)				
	◇耐震性貯水槽設置工事 26,500千円 (全額R8繰越)					◇耐震性貯水槽設置工事 0円				
事業実施手法		☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 (								

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	29,430	26,500	0	0
12委託料	6,180			
14工事請負費	21,485	26,500		
18負担金補助及び交付金				
その他	1,765			
財源(千円)	29,430	26,500	0	0
特定財源	18,964			
市債	4,900	26,500		
その他				
一般財源	5,566			

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		年度内に工事を完了することができなかった。		
KPI	指標1		指標2	
	指標名(単位)			
	目標値			
	実績値			
	目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)				
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由		
	C	工事方法に変更が生じたため、予算額より増額となる見込みとなった。		
	評価	評価した根拠・理由		
	B	事業を進めるうえで、関係部署と協議を重ねて行い、齟齬が生じないよう努めた。		
	評価	評価した根拠・理由		
	—	限られた関係者と進めるものであり、多様な主体との競争が難しい事業であったことから、取り入れることをしなかった。		
	評価	評価した根拠・理由		
	—	事業を進めるうえで、特にデジタル・データの活用を行っていない。		
	評価	評価した根拠・理由		
	C	工事方法に変更が生じたことにより工事費用が増額し、また、工期の延長も生じ、年度内の完了ができなかった。		
	事業実施上の課題・残された課題	新たな耐震性貯水槽が完成するまでの間に万が一有事の際は、大門町内にある溜池の水を水源に使用するため、定期的に溜池の水位の確認や溜池周辺の草刈り等を行う必要が有る。		
	今後の取組方針	現状維持	判断理由	
他の場所への耐震性貯水槽の再設置が工期延長となったため、新たに設定した工期内に終えるよう努めている。				

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報		担 当 課		スポーツ振興課						
事業名	No.8	生涯学習施設全体のあり方・大規模改修等検討								
事業区分	新規	会計区分	一般会計	予算費目	款	8	項	5	目	2
施策体系	1	市民自治活動・学び			戦略的施策	☐	行政改革大綱		(3)	
根拠法令等	生駒市生涯学習施設条例、生駒市生涯学習施設条例施行規則						事務区分	自治事務		
事業期間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年(R7 年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	施設の整備を計画的に行い、今後の方向性を定めることで、整備に係るトータルコストの縮減等を図るとともに施設をより長く安全に使用することができる。		
事業概要(全体計画)	今後の大規模修繕や改修を踏まえ、計画的に実施するため、施設における劣化状況の把握・現地調査を行う。		
	事業の対象	生涯学習施設 (対象数: 7)	
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)
	生涯学習施設整備等調査業務 15,917千円 【債務負担行為】		生涯学習施設整備等調査業務 15,840千円 【債務負担行為】
事業実施手法	☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	15,917	15,840	16,940
12委託料		15,917	15,840	16,940
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他				
財源(千円)	0	15,917	15,840	16,940
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		15,917	15,840	16,940

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	本業務の令和7年度中の整備等の方向性の提案については、中間報告を受理し、協議したうえで、再現地調査やさらなる書類確認等を今後進めていくことで、次年度への最終報告書作成に向けて引き続き速やかに実施する。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)			
目標値			
実績値			
目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	D	プロポーザル方式による随意契約で事業者を選定し、契約した結果、調査範囲が広いため、それほど予算金額とそれほど変わらなかった。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	関係部署の書類も提供したうえで事業者と協議を重ねて行うことにより、齟齬が生じないよう努めた。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	—	事業を進めるうえで、施設の管理運営を行う指定管理者等との協議を進めたが、多様な主体との協創を取り入れることができるかは課題である。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	—	事業を進めるうえで、デジタル技術の活用等は行っていないが、業務効率化のため、今後いずれかの段階で取り入れることができるかどうか検討していく。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	C	令和7年度は他課が実施した劣化状況調査等の結果を踏まえての現地調査をしたが、本業務が令和8年9月末まで継続のため、引き続き協議しながら進めていく。	
事業実施上の課題・残された課題	空調機器等をはじめ、多種多様で数多くの設備等が備わっているが、建設後一定期間が経過し、修繕対応が必要なものや蛍光灯の生産終了など、設備に係る部分の生産が終了しているものが多数ある。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		現地調査を踏まえての資料のとりまとめや協議、再現地調査等を踏まえ、修繕や改修に係る検討及び概算工事費の算定等を含めた報告書の完成を進めていく。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		図書館	
事業名	No.9	図書館リニューアル事業	
事業区分	継続	会計区分	一般会計
予算費目	8	項	5
目	3	目	3
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策
根拠法令等			行政改革大綱 (3)、(4)
事業期間		事務区分	自治事務
☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年(R5 年度～ R8 年度)			

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	図書館本館の老朽化した設備を更新し、まちづくりの拠点となるよう、内装やレイアウトを市民ニーズに合わせリリニューアルを行う。		
事業概要(全体計画)	令和6年度に行った実施設計に基づき、工事を行う。		
事業の対象	図書館本館 (対象数: 1)		
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)
	リニューアル工事		工事監理・その他委託料 31,638,343円
	工事費及び監理料 98,026千円		工事請負費 48,082,216円
	来館者用Wi-Fi設置工事 1,523千円		消耗品 470,369円
	図書館オリジナルグッズ作成 1,884千円		備品購入費 10,778,245円
新図書館利用案内作成 495千円		来館者用Wi-Fi設置 1,034,220円	
返却ポスト、蔵書保管用段ボール 1,563千円		図書館オリジナルグッズ作成 1,883,320円	
合計 103,491千円		新図書館利用案内作成 495,000円	
		合計 94,381,713円	
事業実施手法	☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	6,562	103,491	94,382	545
12委託料	6,520	5,046	33,192	
14工事請負費		96,387	48,105	
18負担金補助及び交付金				
その他	42	2,058	13,085	545
財源(千円)	6,562	103,491	94,382	545
特定財源	6,427	88,876	78,969	267
市債		12,000	12,000	
その他		364	124	
一般財源	135	2,251	3,289	278

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	家具の選定や配置、内装のデザインや機能性など丁寧に見直すとともに、館内で市民の交流が生まれるよう次年度に様々な事業の企画を行った。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	図書館等を活用した市民協働イベント(件)		
目標値	40		
実績値	51		
目標値と実績値の差分についての理由	朝活読得会(図書館本館)の実施。のべ1,786人の参加。工事中も継続して行ったため。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	入札等により、最小限の費用で実施した。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	ハード面を整える一方で、クロージングイベント等ソフト面でも多くの事業を行った。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	—	令和5年度にワークショップを実施し、そこで決定された方針に沿って設計、工事を実施した。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市内公共施設では初の来館者用フリーWi-Fiを導入した。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	A	リニューアル工事のほか、工事閉館前、閉館中のイベント開催や図書館サービスなども行った。	
事業実施上の課題・残された課題	より多くの来館を促すため、新しくなった図書館本館の効果的なPR方法。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		令和8年度にオープニング事業を行う。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		図書館	
事業名	No.10	まちづくりの拠点としての図書館づくり	
事業区分	継続	会計区分	一般会計
予算費目	8	項	5
目	3	戦略的施策	☒
施策体系	1	市民自治活動・学び	行政改革大綱 (1)、(4)
根拠法令等	事務区分		
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年(年度～ 年度)		

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	読書活動の推進を図りながら、様々な事業を市民と協働することによって図書館がまちづくりの拠点となることを目指す。		
事業概要(全体計画)	これまで培ってきた市民や行政、民間事業者との協働のノウハウを活かしながら、図書館運営や各種サービス、イベント等の事業を行う。 事業の対象 市民 (対象数: -)		
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)
	読書バリアフリー 謝礼125千円	読書バリアフリー 謝礼 116,500円	
	知的障がい者サポート 0円	知的障がい者サポート 0円	
	本棚のWA、未在亭 謝礼36千円	本棚のWA、未在亭 謝礼 4,500円	
	ビブリオバトル 478千円	ビブリオバトル 352,900円	
	NAIST連携事業 留学生とFun time! 9千円	NAIST連携事業 留学生とFun time! 0円	
	トライ! 生駒こども読書会議 謝礼92千円	トライ! 生駒こども読書会議 謝礼 30,000円	
	公民連携事業 はっぱクラブ 0円	公民連携事業 はっぱクラブ 0円	
事業実施手法	☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	534	740	504	15,399
12委託料				
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	534	740	504	15,399
財源(千円)	534	740	504	15,339
特定財源				246
市債				
その他				
一般財源	534	740	504	15,093

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	多くの事業を市民とともにやっている。障がい者団体と図書館、ボランティアの3者で国立国会図書館での事例発表を行うなど、市民協働の実態が外部からも高く評価された。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	団体貸出登録数(団体数)		
目標値	170		
実績値	175		
目標値と実績値の差分についての理由	市民との協働活動を行っていくうえで、図書館活動に対する理解者が増えたため		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	事業内容を講師に説明し理解を得ることで謝礼などのコストを抑えることができた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	図書館で活動できる市民を増やすよう、養成講座の開催やイベントを実施した。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市民や大学等の協働により、事業の内容を充実させることができた。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	A	こども読書活動推進において、デジタルを考える場を積極的に設け、その活動を続けている。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	A	ボランティアとして、また参加者として多くの方が図書館に関わってくださり交流が生まれている。	
事業実施上の課題・残された課題	代読ボランティアの養成は、4年前に実施したままとなっており、担い手が不足している。		
今後の取組方針	拡大	判断理由	
		代読ボランティアの養成講座を実施し、さらなる活動の充実をめざすため。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		生涯学習課	
事業名	No.12	歴史文化の発信	
事業区分	継続	会計区分	一般会計
予算費目	8	項	5
目	7		
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策
行政改革大綱	(1)(4)		
根拠法令等	事務区分		
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年(年度～ 年度)		

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	本市には各地域で豊かな歴史と伝統文化資源が存在している一方で、住宅都市として発展してきた経過から、他市からの転入者も比較的多いことからこれらの存在や魅力を知っている人はまだ少なく、そういった市民に向けて本市の歴史と文化を伝えていく。		
事業概要(全体計画)	郷土学習の拠点である生駒ふるさとミュージアムの事業(講座や特別展示等)を通して本市の歴史文化を発信し、市民の郷土愛を高めるとともに、市の指定文化財を増やすことで、まちへの誇りや市の魅力向上を図る。		
事業の対象	生駒市民 (対象数:)		
決算年度の取組	取組計画	取組実績(見込)	
	・生駒ふるさとミュージアムの運営 指定管理料27,970千円 歴史文化入門講座 ミュージアム講演会 特別展・企画展 小学校への出前授業 等 ・文化財の市指定	・生駒ふるさとミュージアムの運営 指定管理料27,970千円 歴史文化入門講座 ミュージアム講演会 特別展・企画展 小学校への出前授業 等 ・文化財の市指定	
事業実施手法	☒ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☒ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	27,970	27,970	27,970	27,970
12委託料	27,970	27,970	27,970	27,970
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他				
財源(千円)	27,970	27,970	27,970	27,970
特定財源				
市債				
その他				
一般財源	27,970	27,970	27,970	27,970

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	ふるさとミュージアム指定管理者と連携して、同施設において企画展や各種講座、こども向け学習や体験などの行事を開催し、歴史文化の普及に努めた。また、文化財保護審議会において市の指定文化財の新規指定に向けた諮問、答申をもとに調査し、年度内に指定することができた。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	市指定文化財の累計件数(件)		
目標値	5		
実績値	5		
目標値と実績値の差分についての理由	有形文化財2件を同時進行で調査し、指定することができた。		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	指定管理者によりふるさとミュージアムの施設運営と歴史文化の発信を行っており、一定のコスト削減と安定的な事業運営を図っている。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	施設での講座等の開催だけでなく、市内小学校に出向いての出前講座にも積極的に取り組むほか、勾玉づくりなど興味を持ちやすい企画を展開するなど、若い年齢層の市民へのPRにも努めている。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	ミュージアムでの事業については、資料提供などで様々な企業・団体・市民の協力をいただいているほか、ミュージアム登録ボランティアの協力も得ながら事業を運営している。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	C	来館者や講座等の参加者にアンケートを実施しており、いただいた要望等を施設運営や講座等の企画に活用しているが、ニーズ把握等さらなる活用を進めていきたい。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	A	ふるさとミュージアムについては様々な魅力ある展示や講座等を実施し、来館者の増加と本市の歴史文化の発信に務めた。	
事業実施上の課題・残された課題	令和7年度に指定した文化財を利用して本市の歴史を発信していく		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		引き続きふるさとミュージアム指定管理者と連携しながら、生駒の歴史文化の発信に努める。次の市指定文化財となる文化財の選定を実施する。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		図書館	
事業名	No.13	市史編さん事業	
事業区分	継続	会計区分	一般会計
予算費目	8	項	5
目	3	目	3
施策体系	1	市民自治活動・学び	戦略的施策
根拠法令等			行政改革大綱 (1)、(4)
事業期間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年(R3 年度～ R10 年度)	事務区分	自治事務

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	郷土や伝統文化に関する学習事業を希望する声が多く、郷土学習を希望する市民が一定数常在するため、新修『生駒市史』を発刊することにより、まちの歩みを知ることでもまちへの愛着を醸成し、まちづくりに参画する人を増やす。		
事業概要(全体計画)	地方史の一つとなる生駒市の歴史書籍を専門家と団体、ボランティアの力を活かして編さんすることにより、みんなで生駒の歴史を学び、生駒の未来について考える機会となる。多数の専門家が数年間生駒市域を調査研究した研究成果を市民に還元することによって、市民の郷土学習を牽引することになる。		
事業の対象	生駒市民 (対象数: -)		
決算年度の取組	取組計画	取組実績(見込)	
	委員の資料閲覧、補充調査 謝礼4,564千円 編さん委員会・分科会の開催 謝礼430千円 本編1巻及び史料集3・7の編集発刊 合計21,695千円 記念講演会実施 謝礼80千円 ニューズレター作成配布 謝礼10千円	委員の資料閲覧、補充調査 謝礼4,848千円 編さん委員会・分科会の開催 謝礼343千円 本編1巻及び史料集3・7の編集発刊 合計17,486千円 記念講演会実施 謝礼40千円 ニューズレター作成配布 謝礼10千円	
事業実施手法	☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	11,418	26,779	22,727	25,698
12委託料			99	55
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他	11,418	26,779	22,628	25,643
財源(千円)	11,418	26,779	22,727	25,698
特定財源	2,726	5,447	5,447	1,200
市債				
その他	2	321	81	479
一般財源	8,691	21,011	17,199	24,019

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	刊行計画に沿って本編第1巻、史料集3・7の作成を行うとともに、次年度以降の本編・史料集の発刊に向け会議・調査等を行った。		
KPI	指標1	指標2	
指標名(単位)	書籍・タイトル累計数		
目標値	6		
実績値	6		
目標値と実績値の差分についての理由			
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	A	本編、史料集の作成では一般競争入札を行いコストの削減に努めた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	A	史料集・本編の発刊に向け、多数の会議・調査等を行った。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市史執筆の基礎資料となるデータ整理や歴史系イベントの運営を市民ボランティアとともにを行った。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	A	市に寄贈や借用した歴史的史料は撮影・リスト作成などを行いデータ化しておくことで、将来的にアーカイブとして公開できるように蓄積を続けている。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	A	刊行計画に沿って本編第1巻、史料集3・7の作成が完了し、次年度以降の本編第2巻・史料集5発刊に向けて順調に調査等が進んでいるため。	
事業実施上の課題・残された課題	市の歴史に関する簡易な内容の書籍等が少なく、市の歴史に関心が高い人々と低い人々の差が著しい。多くの人に市史を読んでもらうことで、市の歴史を正しく認知して郷土に対する愛着を深める人を増やすため、効果的な周知方法を考える必要がある。		
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		引き続き刊行計画に沿って本編・史料集の作成・発刊を行う。	